

(37 年度)

ニジマスの冬囲い試験

技 師 立 川 互

1 ね ら い

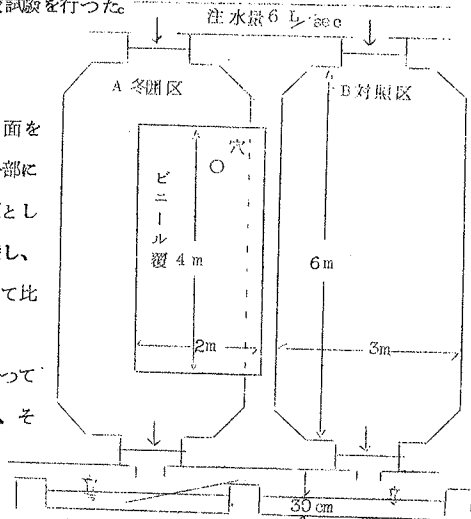
当場のように河川水を使用している養魚池では、冬期には水温が低下するので摂餌意欲が減退し成長率は極めて低い。

昨年試みにニジマス 0 年魚の池を一部分ビニール暗膜で覆をしたところ、魚はその陰に入つて外へ遊出しない様であつた。動きまわらねばエネルギー損耗も少なくなり、餌料効率の増大を計れるのではないかと今冬比較試験を行つた。

2 試 験 の 方 法

右の図のような同一構造の試験池 2 面を用いて、一方は A 冬囲区として池の一部にビニール暗膜で覆をし、他を B 対照区として覆をしないでニジマス 0 年魚を放養し、餌料、放養量等の飼育条件を同等にして比較試育した。

冬囲い区の給餌は、魚が覆の下に入つて外へ出ないため、覆の一部に穴をあけ、そこから餌を投下した。



期 間 昭和 37 年 1 月 4 日 ~ 38 年 3 月 14 日 (100 日間)

水 温 経 過 (C°)

月	旬	最 高	最 低	平 均
12 月	上	7, 6	4, 6	5, 7
	中	6, 2	3, 5	5, 1
	下	7, 0	3, 0	5, 4
1 月	上	6, 0	0, 9	3, 3
	中	5, 3	1, 0	2, 7
	下	5, 3	1, 3	2, 9

月	旬	最 高	最 低	平 均
2 月	上	6, 8	0, 9	3, 7
	中	6, 2	0, 6	3, 4
	下	7, 0	1, 5	4, 0
3 月	上	7, 0	1, 5	4, 1

3 試 験 の 結 果

A冬囲区は覆の下に集っており、外へ遊出することはなかつたが、B対照区は人影に反応してよく泳いだ。

餌料効率は予期に反してA冬囲区95%、B対照区97%でだいたい同じであつた。

給餌量は両者同一で平均給餌率0,32%という少ない量であつたが、餌料効率は悪くない。

歩留りは両者共に良く差はなかつた。

試 験 結 果 表

12, 4 ~ 3, 14		冬 囲 区	対 照 区
尾 数	放 養	319	316
	取 上	318	316
重 量 (kg)	放 養	40, 0	40, 0
	取 上	52, 2	52, 6
平 均 体 重 (g)	放 養	125, 2	126, 6
	取 上	164	166
死 魚 尾 数		1	0
" 重 量		121	0
増 重 量 (kg)		12, 3	12, 6
原 料 給 餌 量 (kg)		14, 54	14, 54
乾 物 換 算		13, 0	13, 0

均
3,7
3,4
4,0
4,1

12,4~3,14	冬 閉 区	対 照 区
成 長 率	0,269	0,269
餌 料 効 率	95	97
平 均 給 餌 率	0,32	0,32

区は人影に反応

であつた。

飼料率は悪くな